



[E]  
 1. イー (英語のアルファベットの第5文字)  
 2. 高音 (ドレミ唱法のミ音)  
 3. (連続したものの) 第5番目

ABCなら何でもありよこのコーナーABCなら何でもありよこのコーナーABCなら何でもありよこのコーナーABCなら何でもありよこのコーナー

## Eco-/エコ ..... 環境の

環境保護意識がますます高まる昨今、自然を守ることこそ我々の使命なんである！とリキんではみても、本気で自然を救いたいなら、真っ先に減るべきは**人間**なんだがな〜。え？そんなこと言ってる間に洗剤やめて粉セッケン使え？ハイすんませんナチュラルリストの皆々様。で、この言葉を掲げよう。“eco-”は「環境の」。この言葉さえくっつけばアラ不思議、どんな単語もたちまち環境保護用語にヘンシンするのだ。eco-city (環境共生都市)、eco-building (環境にやさしい建築物)、eco-marketing (地球を破壊しないマーケティング) などなど。ちなみに、家中を牛乳パックの工作で埋めつくし「これぞ、えころじい♥」と満足な微笑みを浮かべている『**すてきな奥さん**』族は、eco-freak (環境おたく) と呼べそう。

## Endless Love/エンドレス・ラヴ ..... マライア・キャリーとルーサー・ヴァンドロスのデュエットでヒット中のバラード。オリジナルは81年の映画『エンドレス・ラヴ』のテーマソングとして、ライオネル・リッチーとダイアナ・ロスにより歌われた。映画の方は、全盛期だったブルック・シールズの顔以外に見どころが全くないという大胆な作風だったが、この曲は本当たりした。今回のマライア&ルーサーコンビも見事な歌いぶり。でもアレンジがオリジナルと殆ど一緒で芸がないのが難といえは難か。猫も杓子もカヴァーに手を出す最近の音楽業界だが、例えばシンディ・ローパーが自分の過去最大のヒット曲を再び自分で焼き直すという戦法などは、どうもマズイ。新しい世代には正統なアプローチとしても「とりあえずの**安全パイ**」的セコさが見えて悲しいものがある。もう少し考えてくださらんかミュージシャン諸君！レゲエのように、名曲だろうが何だろうがリズムさえ変えりゃこっちのものよ式大量生産だけは、くれぐれも控えて頂きたいのだ。

## End of Conversation/エンド・オブ・カンバセーション ..... 話にならない

人間、生きていれば「あ、**あんた**、何考えてんねん!？」と叫びたくなることが、あなたや私にもあるだろう。わからずやの恋人、ムカツク上司、冷たい世間。そんな輩には一発、End of conversation。『会話の終り』つまり『これ以上話してもムダ』ってこと。こんなこと言われたら**くわ〜ん**ですね。反省しましよ。

●How many times have I told you? Fine! This is end of conversation.  
 (あなたって何回言えばわかるのかしら? もういい、話になんないワ)

## Enough is Enough/イナフ イズ イナフ ..... もうたくさんだ

End of conversation を冷たく言い放つてもわかってくれない相手には、もひとつオマケの**冷酷**フレーズ。声を大にしてぶつけるとよろし。Enough is Enough! 「もう、ええかげんに、してくれっちゅ〜に!!!」。**絶叫**、です。

●He is unbelievable jerk. Enough is Enough!  
 (彼ってば、信じられないおバカ。もうウンザリよ!)

## Empire State Building/エンパイア・ステイトビル ..... キング・コングがよじのぼったビルがこれ、エンパイア・ステイトビルだ。1931

年に世界最高の高層ビルとして登場、ニューヨーク・タイムズは「空に向かって追いつくような」と、その高さを表現した。当時は**飛び降り自殺者**が続出したり軍用機が衝突するなど、世界一の高さを誇るだけに問題も続出。だが、世界貿易センターとシカゴのシアーズタワーに追い越され、高さ世界第3位となった現在でも、マンハッタン象徴としてアメリカの人々には特別な存在のようだ。3ドル50セントでニューヨークが見渡せる展望台は、昨年公開の米映画『めぐり逢えたら』のロマンチックなラスト・シーンにも使われている。一方、これをパクったと噂されるのが真田広之と鈴木保奈美の映画『ヒーローインタビュー』で、ラストに使われていたのは**東京タワー**だった。なんじゃそりゃ!?

年に世界最高の高層ビルとして登場、ニューヨーク・タイムズは「空に向かって追いつくような」と、その高さを表現した。当時は**飛び降り自殺者**が続出したり軍用機が衝突するなど、世界一の高さを誇るだけに問題も続出。だが、世界貿易センターとシカゴのシアーズタワーに追い越され、高さ世界第3位となった現在でも、マンハッタン象徴としてアメリカの人々には特別な存在のようだ。3ドル50セントでニューヨークが見渡せる展望台は、昨年公開の米映画『めぐり逢えたら』のロマンチックなラスト・シーンにも使われている。一方、これをパクったと噂されるのが真田広之と鈴木保奈美の映画『ヒーローインタビュー』で、ラストに使われていたのは**東京タワー**だった。なんじゃそりゃ!?

## Entertainment hotel/エンターテイメント・ホテル ..... ディナーショーやミュージカル、サーカスなど数々のイベントが楽しめ、カジノなどの施設も備えたホテルのこと。こんなホテルが似合う場所といえばやはりラスベガス。そして今、最もベガスを賑わせているエンターテイメント・ホテルが、MGMグランドとルクソールである。オープン時は某テレビの特番でも紹介されていたが(ギャンブルの街なのに、何故か案内人が**安達祐実**……)MGMは遊園地さながらのテーマエリアとアトラクションがある世界最大のホテル(部屋数5005室!)で、ルクソールはエジプトをイメージした巨大なピラミッドの外観と、館内を流れるナイル川が呼び物のホテルである。ここ数年、不況風を受けて盛り下がりがみだつたラスベガス人気も、この2大ホテルの出現で再び急上昇。行くなら今が一番エキサイティングかも。余談だが、ギャンブル以外のベガスの名物ってご存じか。そう、ウェディング・チャペルという**24時間営業**の結婚式専用教会。ここでは僅か数百ドルで結婚の手続きが済み、式もその場で挙げてくれる。離婚手続きも同じ。よって、思い立ったら即結婚!という衝動的カップルは、昔から皆ベガスへ飛ぶのであった。

## Esthetic/エステティック ..... 美学、審美

エステといえば、科学的論理に基づいた美容法というのが一般的だが、本来はフランス語で、『美の哲学』という意味だ。「痩せない」「技術に不満」など、国民生活センター「エステティック110番」に寄せられる苦情は相変わらず後を断たないそうだが、それでも女性の美への執着心の凄さはとどまるところを知らない。テレビをつければ有名エステのシンボル達である浅野ゆう子、細川ふみえ、そして松田聖子までもが「ほれほれ、私みたいになりたいでショ」と挑発してくるんだから、女は気がぬけない。エステ界では時期ごとに流行アイテムが登場するが、最近のヒットは『**あかすり**』&『**塩美容**』である。両者とも過激な響きだが、あかすりは、本場韓国のほうが安上がりということもあって『あかすりツアー』なるバック旅行までできる人気ぶり。だが塩の方は、ブームが多少落ち着いた今頃に「実は医学的には何の根拠もない」などとされている。

## Examine your zipper/イグザミン ユア ジッパー ..... 社会の窓が開いてます。

最後に衝撃のフレーズ登場だ。これを言われた日にゃ、相手が親だろうが近所の子供だろうがキミの**立場はない**。くれぐれもこまめにチェックしよう。そして、キミがそんな奴を見つけて注意するときには一言、「XYZ!」とつぶやいてあげる。これ、Examine~の略語。これなら女性でも言いやすい、かな!?